

異文化間コミュニケーション

科目責任者 飯塚 秀樹

学年・学期 1 学年・2 学期

I. 前 文

本講座では、テキスト "Polite Fiction in Collision" 及び洋画を用いて、文化背景の異なる人々とのコミュニケーションについて考え、異文化・自国の文化・言語についての理解を深めると同時に、グループでの発表を通して、英語プレゼンテーションの力を身につける。

II. 担当教員

飯塚 秀樹 (語学教育部門)

III. 一般学習目標

言語、習慣等の文化的背景の異なる人々との円滑なコミュニケーションを図れるようにすることを目的とする。

IV. 学修の到達目標

- 1) 文化摩擦の原因について学習する。
- 2) 異文化を正しく受け止める寛容な態度を身に付ける。
- 3) 英語によるプレゼンテーション力を身に付ける。

V. 授業計画及び方法 * () 内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1 : 反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態))
2 : ディスカッション, デイバート 3 : グループワーク 4 : 実習, フィールドワーク 5 : プレゼンテーション
6 : その他)

| 回数 | 月 | 日 | 曜日 | 時限 | 講 義 テ ー マ | 担 当 者 | アクティブラーニング |
|----|----|----|----|----|---------------------------------|-------|------------|
| 1 | 8 | 23 | 水 | 5 | オリエンテーション | 飯塚 秀樹 | |
| 2 | | 30 | 水 | 4 | You and I are Equals (1) | 飯塚 秀樹 | 1 |
| 3 | 9 | 6 | 水 | 4 | You and I are Equals (2) | 飯塚 秀樹 | 1 |
| 4 | | 13 | 水 | 4 | You and I are Close Friends (1) | 飯塚 秀樹 | 1 |
| 5 | | 27 | 水 | 4 | You and I are Close Friends (2) | 飯塚 秀樹 | 1 |
| 6 | 10 | 4 | 水 | 4 | 洋画試聴 | 飯塚 秀樹 | 1 |
| 7 | | 11 | 水 | 5 | 洋画試聴 | 飯塚 秀樹 | 1 |

VI. 評価基準 (成績評価の方法・基準)

レポート (70%), 発表 (20%), 出席状況 (10%) をもとに評価する。

VII. 教科書・参考図書・AV資料

Nancy Sakamoto, Shiyo Sakamoto 著: "Polite Fictions in Collision Why Japanese and Americans Seem Rude to Each Other"

VIII. 質問への対応方法

基本的にはいつでも受け付ける。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

| ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針） | | |
|--------------------------|--|---|
| 医学知識 | 人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。 | |
| | 種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。 | |
| 臨床能力 | 卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。 | |
| | 医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。 | |
| プロフェッショナリズム | 医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。 | ○ |
| | 医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。 | ○ |
| 能動的学修能力 | 医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。 | |
| | 書籍や種々の資料，情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。 | |
| リサーチ・マインド | 最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。 | |
| | 自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。 | |
| 社会的視野 | 保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。 | |
| | 医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。 | ○ |
| 人間性 | 医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。 | ◎ |
| | 多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。 | ○ |

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

プレゼンテーションに対し，講義の際にフィードバックを与える。

XI. 求められる事前学習，事後学習およびそれに必要な時間

シラバス別冊に記載。なお，シラバス別冊に記載が無い場合，要点を確認しておくこと。（所要時間の目安20分）

XII. コアカリ記号・番号

シラバス別冊に記載。